リカレント教育の拡充：アグリフードマネジメントの研究

～食の課題解決に経営学の知見で貢献するために～

社会科学研究科　経営専門職専攻

○客員教授 井賀（いが） 英夫（ひでお）、教授 秋山（あきやま） 秀一（しゅういち）

キーワード　アグリフードビジネス，有機農業，CSA，ビジネスモデル

研究概要

本研究は、リカレント教育の一環として社会科学研究科 経営専門職専攻（経営専門職大学院）の修了生が中心となり、修了後の学びと交流の継続を目的として 2022 年に準備会を経て立ち上げた「アグリフードマネジメント（AFM）研究会」において取り組んでいる。

AMF 研究会は現在 14 名で活動している。参加メンバーはそれぞれ食料自給率や食料安全保障、農村部も含めた地域活性化など食に関する問題意識はあるものの、食に直接関係する仕事に携わっているものは僅かである。そうした事もあり、2022 年中は参加メンバー全員で共通の知識を蓄積していく事を目的に、兵庫県内の昆虫食用のコオロギを育成している施設や、六次化を図る農業生産者の現地視察、坊瀬漁協の見学ツアーへの参加などフィールドワークを実施した、また同時にアクティブブックダイアローグ（ABD）方式で食に関する文献の学習会も実施した。

その中で、本研究では CSA（Community Supported Agriculture：地域支援型農業）に注目し、経営学のアプローチから実践的な研究を行っている。令和 3 年に農林水産省によって策定された「みどりの食料システム戦略」において、2050 年までに有機農業の取組面積を全耕作面積の 25%（約 100 万 ha）にする目標が示された。また神戸市においても「オーガニックビレッジ宣言」の準備が行われている事も背景に、2023 年からは神戸市内の有機農家を対象にしたアンケート調査をおこなうため調査票の設計に取り組み、調査を実施中である。

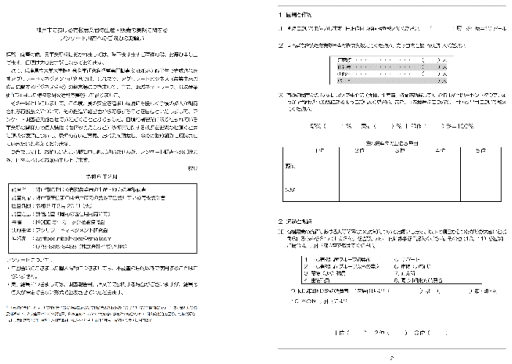

図１　調査票（一部抜粋）

アピールポイント

国内の有機農家は非常に少なく、CSA に取り組む個人、グループは 10 程度である。流通や生産者と消費者の関係性、ネットワークの視点から CSA を分析した先行研究は存在するが、本研究のように経営学をベースに、ビジネスモデルとして生産者の事業にどのような影響を与えているかを研究したケースはごく少数である。

現在は神戸市内の有機農家、とりわけ CSA に取り組むグループを対象にした調査活動を実施している。調査を通じて、CSA がどのようなメカニズムで機能しているかをビジネスモデルの観点から分析し、その特徴を明らかにする予定である。